

東邦大学医学メディアセンターにおける 著作権ヘルプデスクの取り組み

大谷裕， 黛崇仁

東邦大学医学メディアセンター

東邦大学医学メディアセンター（以下、当センター）では、2019年5月に、利用者支援の一環として著作権ヘルプデスク（相談窓口）を開設した。今回の発表では、著作権ヘルプデスクに寄せられた相談内容についてとりまとめ、今後の展開について検討を行う。

1. 相談内容の分析

(1) 受付件数

- 著作権ヘルプデスクでは、2019年度～2022年度にかけて41件（年平均10.3件）の相談を受け付けた。
- 当センターでは、著作権の他に、統計ソフト、文献管理ツール、文献検索、Microsoft Office、LMS、EBM・診療ガイドラインについてのヘルプデスクを設けており、これら全体の同期間の受付件数は750件（年平均187.5件）であった。
- このうち、統計ソフト、文献管理ツール、文献検索は年平均50件以上の相談を受け付けており、著作権ヘルプデスクは5番目となり、中位に位置していた。

(2) 著作権ヘルプデスクの利用者属性

- 最も多かったのが「教員」24名、次が「事務職員」19名であった。全ヘルプデスクの利用者属性からみると、「教員」の17.4%、「事務職員」の63.2%を占めていた。

(3) 相談内容

- 相談内容を利用目的で分類すると、講義での利用17件（41.5%）、学事での利用11件（26.8%）、研究での利用7件（17.1%）、その他6件（14.6%）であった。
- 個別にみると「講義での利用」では、講義スライドでの引用方法や講義システムへの教材アップロードに関する問い合わせが寄せられた。
- 「学事での利用」ではオープンキャンパスでの動画公開や、学内刊行物・掲示物への他者著作物利用についての問い合わせが寄せられた。
- 「研究での利用」では、自著論文の公開方法などの問い合わせが寄せられた。
- 「その他」には、出版社からの引用した図に対する料金請求や、学外の面識のない研究者からデータ提供依頼など様々なものがみられた。

2. まとめ

- 著作権ヘルプデスクは、教職員からのニーズが高いサービスである。
- 開設前は講義用スライドの確認などが多くと予想していたが、コロナ禍でオンライン授業が中心となり、教材の配布に関する質問が多く寄せられた。従来のレファレンスサービスに近い案件もみられ、図書館業務との親和性の高さもうかがえた。
- 今後は、新たなサービスとして学生向けの著作権啓もう活動に力をいれたい。